

## ■平成 27 年度 第 4 回 静岡市歴史文化施設建設検討委員会

- 1 日時 平成 27 年 12 月 9 日（水）14 時 00 分から
- 2 会場 静岡市役所静岡庁舎 新館 17 階 171・172 会議室
- 3 出席者 [委 員] 熱川裕、今村直樹、櫻井典子、杉澤恒、杉山朋子、中村羊一郎、  
松川満嘉、望月敬剛、森田みか  
[事務局] 観光交流文化局長、観光交流文化局次長  
歴史文化課：丸岡課長、岩田課長補佐、花村副主幹、小泉主査、  
稲森主査
- 4 欠席者 [委 員] 谷直樹
- 5 傍聴者 6 名
- 6 議事 (1) 基本計画案

### 7 会議内容

#### (1) 開会

#### (2) 議事

○委員長：これまで 3 回にわたりまして、ビジターセンターの機能、展示内容、あるいは諸室の構成などについて、ご協議いただいております。今日は最終回ということで、基本計画全体につきまして、協議をお願いしたいと思います。

初めに、前回までの検討内容について、事務局からご報告をお願いいたします。

○事務局：資料「検討経過」を説明。

○委員長：これまでの検討委員会で展示内容につきまして、徳川家康公をメインにするということで、おおむねの方向性は皆様のご了解を得られていると思います。また、諸室の構成や、面積、ビジターセンター機能については、いろいろな意見をいただいたところでございます。本日はそうしたうえに立ちまして、基本計画案全体の内容について、ご協

議をお願いしたいと思います。

この基本計画案は、検討委員会での意見を踏まえ市の考えが示されたものでありまして、検討委員会そのものが、いわゆる諮問を受けてそれに対する答申を出すかたちではございません。従いまして、委員会として統一見解を出すことはいたしません。

これらを踏まえたうえで私たちはこういうふうを考える、こういう点を盛り込んでほしいという率直なご意見をできるだけいただきたいというのが、本日の集まりの趣旨でございます。

そして、委員会のご意見等を踏まえて、案をつくりまして、パブリックコメントにかかけます。そして、それを踏まえまして、さらに最終的な案を事務局のほうでまとめることになっております。

それでは、議事 1、基本計画案につきまして、事務局から説明をお願いいたします。議論を区切って行いたいと思いますので、お手元にあります A3・3 枚の概要版の 1 枚目の基本方針から事業計画までの説明を事務局をお願いいたします。

○事務局：概要版 1 「Ⅰ 基本方針」、「Ⅱ 事業計画」の「1 事業の基本的な考え方」を説明。（基本計画案 P. 1～18）

委員から、意見なし。

○事務局：概要版 2 「Ⅱ 事業計画」の「2 事業詳細計画」の「(1) 展示計画」、「(2) 協働・連携による活動計画」を説明。（基本計画案 P. 19～28）

○今村：計画案の 23 ページから 24 ページですが、重点的に家康や駿府に関する資料を集めるということですが、歴史資料が残っているのは家康の時期よりも後の時代です。江戸時代や、明治、大正となりますので、広い意味で、静岡市の発展に関する資料を集めるかたちにできないか、意見したいと思います。

これでは、静岡市の駿府の話が中心となって、同じ静岡市域にある駿府の発展を支えた周辺地域の話が落ちてしまうと思います。そういったところの資料はなくてもいいのかという話にもなると思います。

○委員長：先ほど事務局から、駿府駿府と言うけれどもべつに駿府 96 ヶ町だけではなく、周辺を全部含んでのイメージだという説明がありました。ほかの委員の方はいかがでしょう。

○森田：資料の収集に関しては、自然体のものを集めていくのは必要だと思うのですけれども、この博物館のコンセプトとして、対外的な見せ方として徳川家康に特化しているの

は 1 つの特徴付けになると思うので、打ち出し方としては総花的にならないほうが集客力も高まっていいと思っておりました。

徳川家康に特化した研究に関しては、どこにも負けないという特徴付けが今後もできていって、実際の徳川家康公の恩恵は駿府の小範囲だけではないと思うので、そういう見せ方はいいのではないかと思うのと、全体としては、今までの意見をうまくまとめていただいたという印象で見させていただいております。

○委員長：次は、概要版 2 枚目のビジターセンターの計画から、最後まで、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局：それでは、まず概要版の 2 枚目のオレンジ色で示した右側と、基本計画案の 29 ページをお願いいたします。

ビジターセンターにつきまして、静岡市の観光客の状況の分析などからターゲットを絞るとともに、これまでの検討委員会でのご意見を踏まえ、具体的な内容を検討しました。

静岡県の観光動向調査などの分析によれば、静岡市への来訪者の 9 割以上が日帰り、買い物を目的とした人が多いことが分かりました。また、その半数以上が女性であり、20～30 代、50～60 代が多いということで、ビジターセンターへの取り込み対象をここに絞り込みました。この対象者が高い関心を示すものは、健康と美であったため、それを 1 つのテーマとしました。

また、これまでの検討委員会では、観光案内機能、静岡らしい食の提供や体験、歴史に興味を起こさせるようなもの、さらにインパクトのある展示などのご意見がありましたので、これらを踏まえ、ビジターセンターの構成を設定しました。

まず、エントランスは、「歴史に気持ちを引き寄せる」と表現しましたが、現在の中心市街地から家康公の時代へ導くタイムトンネルのような仕掛けを考えました。その中で、20～30 代には新鮮で、50～60 代にはどこか懐かしく孫の世代に語りかけることができるような昭和初期の街並みとして、静岡では昭和 15 年の静岡大火の前、昭和 20 年の空襲の前などを模型や絵図などで再現し、過去への誘導とします。この模型は、市民の皆さんが情報を持ち寄って、市民活動として作成していくことなどが考えられます。

そこを通り抜けた所に、歴史体感展示として、家康公の大御所時代の国際都市、駿府のにぎわいを再現します。ここは、家康公に会うため駿府を訪れたスペイン人や、朝鮮通信使、甲冑をきた武士の行列や、象、それらを原寸大の模型で表現し、さらに来館者には衣装を借りて身に付け、行列の中に入り込んで写真を撮ることや、模型に直接触れることも

できる空間とします。

この部分につきましては、委員の皆さまに事前に説明をさせていただいた折りに、さまざまなご意見をいただいております。365 日毎日同じではなく、展示物を不定期に入れ替えるなど、運営の中で工夫をしなければならない点が多くあることは承知しております。

ここが、博物館の展示の柱である家康公の外交と関係し、大御所家康公と駿府という都市イメージを打ち出していきたいという思いで、このイメージ図を作成しました。大御所時代の駿府が国際都市であったこと、また、家康公に会いに全国から人がこの地に集まってきたことを知っていただきたいというものであります。

この場所は無料ゾーンとし、ここに人を集め、ここから有料の展示エリアやショップなどにいざなうものになりたいと考えております。また、ターゲットとして絞り込んだ女性の関心が健康と美であることから、家康公にちなんだ健康食や静岡茶などを提供できるカフェや、地元の職人がつくるおしゃれな小物や少々値がはるものの質の良い伝統工芸品などを販売するミュージアムショップは、この施設の役割の中に必要であると考えました。これらのショップ、カフェは、博物館の展示や近隣でのイベントと連携し、歴史体験を思い出として持ち帰るための展開を考えています。

観光案内情報コーナーは、ここに来れば静岡の見どころの全てが分かるような情報を提供するとともに、観光案内の専門的なスタッフを配置し、きめ細やかな案内をすることで訪れた人が満足できるようなおもてなしをします。

概要版の 2 枚目の下段をご覧ください。(4) 資料の保存活用計画、(5) 情報の管理や提供システムの活用計画についてです。これらについては、今回の検討委員会では議論をしておりませんが、平成 25 年度までに実施した検討委員会での検討を踏まえ、ここに位置付けています。これらの内容は、基本計画の 33 ページから 37 ページに記載しております。

次に、概要版の 3 枚目をお願いいたします。始めに施設計画についてです。この 3 枚目の左下をご覧ください。建設地は旧青葉小学校跡地に、既存の建物を解体して建設します。また、施設の建設にあたっては、民間施設との複合化を前提としています。来年度、複合化について可能性調査を行い、具体的な手法を検討するとともに、ビジターセンターの運営についても、民間施設との複合の中で実施できる手法があるか検討したいと考えております。

また、この施設は国宝や重要文化財の展示を想定していますので、その条件を満たす設備を整えます。そのほか、施設の整備と併せて、静岡駅や新静岡駅方面からの人の流れを

考えたアプローチの検討も必要であると考えています。

施設の建設にかかる費用は、複合施設化の検討調査、建物、展示の設計、建設、情報システムの構築、発掘調査、展示品との交流など、総額約 62 億円を想定しています。

左の図の上をご覧ください。施設の面積につきましては、前回の検討委員会の意見を踏まえ、全体面積の 5000 平方メートルは確保したまま、展示エリアを減らし、市民交流エリア、ビジターセンターエリアを増やしました。

まず緑色の常設展示室ですが、前回の委員会では広すぎるのではないかというご意見がありました。その意見を踏まえ、想定される展示物や、来館者の動線などを基にシミュレーションをした結果、750 平方メートルとしました。また、地域学習展示室と企画展示室は一体で利用できるような部屋とし、巡回展の実施状況や企画展の規模などを検討し、500 平方メートルとしました。逆に紫色の収蔵庫はもう少し広いほうがよいというご意見がありました。現状では変更しておりません。

現在、本市では、登呂博物館では登呂遺跡に関するものを、清水区横砂の埋蔵文化財センターでは考古資料を、旧由比庁舎では考古資料や民俗資料などを保管しています。これらとのすみ分けの中で、この歴史文化施設では美術工芸品や古文書などの歴史資料を保管していくことを基本にしたいと考えております。

今後資料が増えていくことは想定していますので、複合化の方向性や、市のアセットマネジメント計画のような全体計画の中で、今後検討が必要であると考えております。

青色の市民交流エリアには、家康公研究室、駿府アカデミアを追加しました。家康公研究室は、この施設の特徴である家康公を市民団体や専門家が研究する場として、前回収蔵庫にあった書庫をここに移動するとともに、ゼミ活動のような研究ができるスペースを 150 平方メートルとしました。

また、駿府アカデミアとして、小規模ですが、昔の大学の講義室のような雰囲気のある場をイメージした小講義室を追加しました。特別な場所で学ぶことで、学んだ記憶が心に残り、歴史の理解にもつながるのではないかと考えました。なお、大規模な講演会などは周辺の既存施設を使用していくことになります。

オレンジ色のビジターセンターエリアは、インパクトのある展示ということで、前回委員会で示した体験広場、ガイダンス展示に具体性を持たせ、歴史体感展示としました。また、複合施設で整備するとしていたカフェを、展示内容と連動したイベントを行うことができるように、歴史文化施設の中で整備する案としました。

これらの面積は、今後行う設計の段階で詳細を検討し、決定していきます。これらの内容は、基本計画案の 39 ページから 52 ページに記載してあります。

概要版の下段をご覧ください。管理運営計画です。施設の運営にあたっては、学芸など専門的な知識を持った職員を適切に配置します。運営方式は市が直営で管理することにより、安定的運営ができるとされる公営や、民間の専門的なノウハウを持ったスタッフを配置し、効率の良い運営が期待できる指定管理者による運営、さらに博物館機能部分を公営、ビジターセンター機能を民営とし、権限の及ぶ範囲を定め、それぞれの特徴を活かした相乗効果が期待できる運営を行えるような公営プラス民営などの手法が考えられますが、今後さらに検討を進め、集客施設としてのビジターセンター機能と博物館機能の 2 つを効果的に活かすことができる手法を採用します。

最後に、開館に至るまでのスケジュールです。今年度は基本計画を策定し、来年度は民間との複合施設化の検討を行います。来年度に複合化の方針を決定し、順調にいけば平成 29 年度から 30 年度にかけて建物の設計、展示設計、建設地の発掘調査を行います。その後、平成 31 年度から建設工事、展示制作を行い、平成 32 年度中に施設の完成となります。その後、コンクリートのガス抜き期間を設け、平成 33 年度開館の予定となっております。複合化の建設手法により、建設までの工程は並行する可能性があります、いずれの場合も、平成 32 年度の完成を目標としております。

○委員長：今まで、かなり漠然といろいろなかたちで進んでまいりました委員会でございますけれども、今のご説明によりまして、建設に至るまでの工程も含めて、非常に具体的なかたちで示されたのではないかと思います。

○櫻井：事務局の皆さまのご努力により本当に素晴らしいものができたと思います。本当に素晴らしいものができるなという感じがしました。

私は最初からずっと気にしていたのは、ビジターセンターなのですが、よくよく考えてみると、このビジターセンターが、静岡市のビジターセンターなのか、博物館のビジターセンターなのか混同していました。静岡市として集客するためのビジターセンターなのか、歴史博物館に来てもらうためのビジターセンターなのかの、区別があいまいで分かりませんでした。

博物館のためのビジターセンターであるとする、この歴史体感展示がかなり広いスペースを取っている、博物館と同じような機能というか、歴史の展示になるということで、例えば、学芸員さんはこのビジターセンターの中のどこまでかわることになるの

かという疑問を持ちながら、これを聞いておりました。

当初、谷先生がおっしゃったとおり、谷先生の博物館でも展示物は非常に少なかったけれども、それを長い年月をかけて増やしていくことによって、お客さまも非常に多くなっていったということでした。歴史博物館の展示物が、本物でいいものを学芸員さんの力で集めていくことによって、博物館の魅力を増し、博物館に来てくれる人が増えてきますので、力のある学芸員さんを早く集めて、その人たちによって本物でいいものを並べて、静岡市の博物館ができていくといいなと思いました。

○森田：この委員会でも、最初にビジターセンターの話が出て、皆さん違和感があるところから始まった経緯もありますけれども、前回、事前説明を受けた中で、歴史博物館とビジターセンターは別の機能だとよく分かりました。ただ、別の機能をうまく連携することによって、博物館もビジターセンターも今までにないものができるだろうという期待感も増しました。

最終的に管理運営の方法は今後検討するというお話をいただいていますけれども、教育や、研究、保存にはお金がかかります。お金が回収できなくても絶対に守らなければならない分野の仕事と、博物館を継続させるために稼いでいかなければならない機能を、うまく両輪で回していく必要があります。それを運営できる全体の企画に、この施設の成功がかかっているととても思います。

歴史研究の、歴史探求と地域学習に関してはとても細かくまとめられていて、こういうかたちがうまく進んでいけばきっといい感じに進んでいくのだろうというのが分かります。ここのターゲット層はもともと歴史が好きな人たちなので、その人たちの意欲をちゃんとかきたてながらやっていくことで、だんだんにファンを増やしていくことが可能ではないかと思います。

ただ、ビジターセンターから歴史博物館に人を流さなければいけないという、もう 1 つの課題があると思います。ここにターゲット設定されている 20 代から 30 代、50 代から 60 代で、一番難しいのは 20 代から 30 代の女性かという気がするのですが、もともとそんなに歴史に興味がない人たちがここまで来てくれて、ああ、面白いなと思って博物館まで足を運ばせる作業は、たぶんすごく労力を使うのではないかと思います。静岡市の魅力を感じてくれているターゲット層が、このビジターセンターにまずやってくるころまでしなければならぬとなると、ビジターセンターは歴史博物館と連携して物事を進めていけばいいのではなく、こことも連携しながら、まちなかの様子を見ながら、うまく

両方の要素を採り入れていくコーディネート力がすごく必要になってくると思うのです。

そうしたときに、ここのエリアに関しては、歴史博物館ほど細かく設定されていません。たぶん、具体的なイメージがそこまで追いついていないという部分もあると思うのですが、まずはショップとカフェを一応入れていただいたということで、これからいろいろな可能性を考えていけることになったので、とてもいいと思いました。

歴史に向かうタイムトンネルの部分の考え方はすごく面白いのですが、先ほど事務局からもありましたように、ここが固定になってしまうと、絶対に陳腐化するのです。1 回行ったら絶対もう行きたくないというのが目に見えているので、可動式にさせていただいて、この機会であればつくれないのでつくっていただくのはとてもいいと思うのですが、いつもあるのではなくて、このときだけあるというふうに、出し入れできるように、出し入れするためのスペースも確保してもらわなければいけません。毎日新しくしないと、今ターゲット層にしている 20 代から 30 代、50 代から 60 代の女性はやって来ません。毎日新しくできる仕組みを展開できるように計画をしていただきたいと思います。

ここに、生きている人が入ってくるのが、すごく面白いと思っています。週末に静岡文化会館でやった音楽祭で、新しい曲をつくっていただいて、それを吹奏楽バージョンや合唱バージョンでいろいろやってくださいました。最初の一部で、SPAC の劇団の方が朗読しながら、子どもたちが合唱でつけている舞台があったのです。舞台装置はほとんどないので、すごくよくイメージが伝わってきて、すごく面白かったです。

SPAC の 1 人の方の舞台芸術性で、こんなにたくさんのお客さんを喜ばせることができると思ったら、ステージみたいなかたちでここが使えたら、すごく楽しいだろうと思います。静岡にはそういう人材がいるわけです。それこそ大道芸をやるためにカメラマンをやめておまんじゅう屋さんをやっている人もいますから、そういう人たちをこの中に呼び込んで、歴史に絡めてということになりますけれど、毎日違うことができなければ、多くの人が実際にやって来るのではないかと思います。

○委員長：場合によっては夜まで開けて、いろいろな人に入ってもらうことも必要かもしれないです。

○望月：城内中学校の前にできるものですから、毎日、ここにできたらどうなるのだろうという思いで見えています。時期によって、たぶん志太地区が多いのだろうと思うのですが、小中学生がかなり駿府城公園や、文化会館を利用しています。秋は毎日のように何校も何校も通るのです。ですから、きっと小中学生はこれが完成すると、学校でまず見

てみようという最初の調整があると思います。

ですので、1 回目に行って、子どもたちが家康公や静岡の歴史に興味を持つと、家に帰ってそれが親に伝わり、学校ではまた次年度の見学を位置付けたり、小学校の場合には特に地域学習に結び付けていく可能性が非常に大きいと思いました。

中学生になりますと、なかなか地域学習だけの時間を取ることが難しいものですから、総合という時間の中で、何時間かを地域学習に充てていくことができるかと思っています。

先日、学区内の浅間通りに、いわゆる市民団体の歴史の研究家の方がいて、冊子をつくられていて、改訂版ができましたと届けてくれたのです。浅間通りを中心とした神社、お寺、石碑などいろいろなものを研究されていて、そういうところに人を募って案内してくれる方がいらっしゃるのです。先ほど事務局のご説明の中で、市民団体の活用をとということだったものですから、ぜひ、身近にいる市民団体の方がこの中に常に出入りができ、活動できる場を提供していただくと、身近な地域の素材を開発でき、知ることができると思います。

恥ずかしながら、私たちは自分の学校でも、子どもたちがここは駿府城の中だとか、家康公とか、今川氏は知っているのですけれども、どこまで知っているかという話を聞いてみると、そんなに深くは知り得ていないのです。ですので、なんとか自分の住む地域の歴史に関して知ってほしいなという思いがあります。

これはせっかく駿府城の中にできるものですから、巽櫓とどういう連携をしていくのかとか、家康公ですので、駿府城そのものの歴史があると思いますので、そんな説明がどこでされるのかも少し考えました。石垣を毎日見ているのですけれども、ものすごく大きな石がはめ込まれている場所が何カ所あるのです。ほかの石が 4 つ並んでいてもいいのに、なぜ、そこは大きい石なのだろうと疑問に思ったものですから、そんな説明をしていただくとか、駿府城自体の研究もできるといいかなと思います。

家康公の研究室が新たに出来上がったというのは、全国から専門的な勉強をされる方を募るには、とてもいいところだと思います。蔵書や、貴重な資料を整えていただくとありがたいと思いました。

○委員長：特に小学生、中学生に対して、どういう戦略を立てていくかは非常に大事なポイントになると思います。

○杉山：今、望月委員のお話を聞いていて思ったのですけれども、先ほどの 19 ページの展示計画の対象層をあまりに狭くし過ぎていないかと思いました。主な対象層は、市民と、

市に観光で訪れた人と、市内の小中学生です。今のお話を聞いても、志太地区もということですが、ここをもう少し広げておいたほうがいいと思います。

かたや、ビジターセンターの計画の 29 ページには、市民が入っていないのです。市民もビジターセンターの主な対象層に入っていたほうがいいのではないのでしょうか。

○委員長：ビジターセンターの基本的な性格にもかかわることでございますけれども、若い女性もぜひ取り込みたいということになりますと、このところは、市民という言葉もぜひ入れてください。

○杉澤：主な対象層で、静岡市に観光等で訪れた人とありますけれども、内容としてしっかりしたものをつくるというのが 1 つです。民間的な発想ですと、ではそれをどうやって皆さんにアピールしていくのだろうかといったところは非常に重要です。これを両輪で進めていく必要があると思います。ただ、つくりましたでは来てくれないので、そこを市外の方、近隣の市町に、どうやってアピールしていくのかは、ちょっと考えていかないと苦しいというところです。

それと、せっかくこれを拠点とするという考え方があったので、静岡市だけに限らず、広域でなく中域で連携をして地域の素材としてアピールをしていくことを考えたほうがいいと思いました。

私は、着地型観光に取り組んでいるのですが、非常に難しいというのが正直なところです。どこの市も県も同じようなことをやっています。その中で、これは静岡市ではないのですが、着地型観光をやっている課が 3 つもあるのですが、その連携ができていないのです。そして、県でもやろうとしていて、市でもやろうとしていて、割とちぐはぐなのです。

例えば、これは外国人になってしまいますけれども、インバウンドで Wi-Fi をやろうとしています。また、これは市と県が違うことをやろうとしています。その連携ができないのかなと、最近強く思っております。

○委員長：今、ご指摘のあった連携はすごく大事なことで、県、市だけではなくて、同じ市の中でも、いろいろな課や施設がある中で、トータルでどういうふうな戦略を立てるかは一番大事なところだと思いますが、残念ながら目に見えたかたちでの連携がなかなか表に出てきません。これは、市にとっても非常に大きな課題だろうと思いますが、ここだけの問題ではありません。ぜひ、考えていただきたいことではあります。

○松川：天下泰平まつりのときに、本当に久しぶりに東御門と巽櫓へ行きました。そうし

たら、中に博物館的な家康のものががちり展示してありました。ここでこういう展示ができるのなら、こっちに持っていけばいいなと思ったのです。事務局で聞いたら、「天下泰平まつりのときだけ」ということでしたが、とてもいい展示でした。

東御門と巽櫓の展示スペースも活用して、すみ分けをしないと、もったいないという気がしました。

先ほど歴史体感展示から本展示へという話があったのですが、実は登呂博物館が同じようなつくりになっています。下のほうが体験できる無料のスペースになっていて、上が有料の展示になっています。そこも、たぶんこと同じように、体感してそれから展示ということを考えていると思うのですが、実際に下を経験して、では上も見ようかという人はいないのです。理想は分かるのですが、登呂を見ていると、実際にその動きはありません。

また、本当に民間の歴史愛好者はすごく熱くて、コアな部分になるので、ぜひそれを活かしてもらいたいということ、切にお願いしたいと思います。本当に力のある研究団体がありますので、それをぜひ活用してもらいたいです。

すごく地域に愛着を持っているので、かかわりたいのです。すごく元気なシニア層がいっぱいいるので、その元気なシニア層をいかに巻き込むかというのは、これからいろいろな場面で課題ではないかと思います。

○熱川：この間、私は八戸へ行って来たのです。水族館系ですけども、建物は立派なのですが、展示の部分が、われわれから言わせると、はっきりいって思い切りちやちなのです。だけど、最初の数年間は 1 万から 2 万人ぐらいしか来なかったのに、7 万人来るといいます。近所の学校は、景色もいいので、みんな遠足には必ず来るといいます。児童会館のときも、みんな遠足で、県中部地域の学校はほとんど来たのではないかなと思います。

八戸になぜ来るかという、館長以下みんな素人なのですが、すごく熱心なのです。特に館長はすごく、自分でいろいろな資格を取ったり、学芸員ではないのだけれど、働いている人たちも、水族館ですから潜水士の資格を働きながら自主的に取るとか、館長もおもてなしの何とかという指導員の資格を取って、みんなを指導しています。

やはり熱いのです。静岡の科学館もそうだったのですが、館長によって全く入り込み数が変わってしまう感じです。キュレーターも確かに大事なのですが、運営する人が素人でもおもてなしがうまいとか、熱心な人が大事になるのではないかと感じまし

た。

その足で仙台へ行きました。たぶんバブルのころにつくった、ものすごく豪華なものですけれども、美術館の展示みたいで、やたら広くて、きれいで、面白くないのです。やはりちょっと一工夫して楽しめるみたいな展示がすごく大事だと思います。

先程の森田委員のは、ミュージカル仕立てというか、オペラ仕立てなのです。AOI でやっている手法です。舞台も何もなくて、ただ絵が 1 個あって、それが象徴するみたいな感じで、安上がりにオペラができてしまうのです。それは、今度の歴史博物館にも、確かに考え方として活かせる手法かなと思います。知恵を絞ると、ものはなくてもイメージができるものがあると思います。

この間、「I Love しずおか協議会」で企画して、メンバーはよそから来た支店の店長さんが多いものですから、駿府城公園と浅間神社をみんなで見ようよということで、駿府ウェイブの人に案内をしてもらいました。われわれは知っているつもりでも、びっくりするぐらいに面白くて、例えば東御門の枳形は、取りあえず攻めてこられないようにするためなのかと思ったら、出陣するとき、枳形には 800 人が入るので、それを何回繰り出したから何人の兵力だと計算できるようになっているのです。それを聞いてこの間金沢城に行ったら、金沢城の枳形は駿府城よりはるかに小さいのです。それだけ駿府城は立派だなと、説明を聞いただけで分かってしまいます。やはり説明は大事だと思います。

その説明も、この間『新・観光立国論』（著：デービッド・アトキンソン）を見たら、説明は多言語で、しかも丁寧に詳しく深掘りするのがこれからの歴史観光だと言っていました。確かに、観光施設、歴史施設を見ても、そんなに詳しく多言語で表現しているのはほとんどありません。これからはそれが大事だと思います。

今朝出勤してくるときに、たぶん、中島屋か、浮月楼に泊まった団体ではないかと思えますけれども、明らかにヨーロッパの人たちが 30 人か 40 人ぐらいの団体で来ていたのです。そういう時代に静岡もなりつつあるところでは、歴史博物館ができて多言語で案内したら、すごく喜んでくれるのではないかと思いつつ、あいさつをしてしまいました。そんな意識もしてもらったほうがいいのかなと思いました。

先日、手紙をもらいました。皆さんのところにも行っているのかもしれないですけども、静岡鉄道清水市内線の電車が、清水港線の跡に展示してあったと思いますが、その展示をこの歴史博物館でしないかという提案をいただきました。清水と静岡をつなげるということと、谷先生もおっしゃっていたちょっと前の静岡を表すことでも面白いと思います

けれども、敷地の問題もあり、清水の人たちの思いとしてそれが正解なのか分からないので、慎重に検討をしていただきたいと思います。

ビジターセンターの活用として、海外から来た人たちをおもてなしできるようなホテルをという提案をさせてもらったと思うのですが、積極的に採り入れてもらうと、より魅力的な施設になると思います。

これはどうかと思います。24日に奈良の元興寺を見に行くのです。元興寺には国宝の五重塔があるのですけれども、本物の五重塔をつくったときに、そっくり同じ技術でそっくりそのものをつくったのですが、本物は焼けてしまい、模型の五重塔が残っていて、それが国宝になりました。

駿府城はいつできるか分かりませんから、幾つかの説があるかもしれませんが、本物みたいな、これぞ駿府城みたいなものをつくってみたいら面白いと思ってしまいました。

連携という話が出ました。今、科学館とAOIと美術館が連携しています。こういう静岡市内にある文化施設を活用してもらうのも、音楽で見る歴史とか、美術で見る歴史とか、そういう切り口でやると面白いと思います。

この間も児童会館の話をしたのですけれども、子どもたちは、遊び相手になってくれる素人のお兄さん、お姉さんたちがいるだけで毎日来るみたいで、その中で歴史に興味を持ってもらう仕掛けもいいと思いました。

20代から30代の女性をターゲットとする話が出ましたが、佐野美術館の刀剣展に行くと、女性ばかりなのです。ちょっと切り口を変えて企画展をやると、女性も呼び込めるかなと思いました。

○委員長：例の刀剣女子、刀女子はゲームがそもそもの発端らしいです。そういう意味で言いますと、まだオープンまでには結構な時間もあるようですから、そうしたことも含めまして、立体的な盛り上げ方も研究されなくてはいけないという気がいたします。

榊形は、今あるから、できたら城内中学校の生徒さんに全員入ってもらって、何人入るかということがすぐにできるわけです。そんな具合に、周辺からいろいろ盛り上げていただくのもなかなか面白いのではないかと思います。

○櫻井：先日、丸子城と駿府城を歩くものに出てきました。丸子城を登ってきて、いろいろ見てきましたけれども、駿府城へ行って何を見るのかと思ったら、外堀を歩くのです。静岡市立病院から、長谷通りのほうにかけて、土地がずっと下がっているのが非常によく分かりました。お堀をそのまま普通に平らにしたら水落が水没してしまいます。そこをう

まく水を制御しながら、実にうまくお堀ができていくという話をずっと聞いて、外堀をぐるっと歩いたのです。

そういうお話は、ただ普通に静岡市で生活をしているだけでは何も分からないことです。やはり、それを説明してくださる方がいることによって、分かったわけです。

私はこの委員に応募するときに、語り部ということで書いて出したのです。それぞれのところに面白い語り部がいます。そういう人たちとこの博物館が連携を取りながら、観光客の案内もしてくれるようになっていくといいなと思います。

市民団体や、興味のあるボランティアの人たちは、この建物ができるのを本当に楽しみにしていると思います。ですから、市民交流エリアの充実もぜひしていただきたいと思います。

そうした人々が入り出すことになると、ここの管理運営に関してはまた難しい問題もいろいろ出てくると思います。そのへんをどなたが担当してくれるのか、そこも課題になっていくのではないかと思います。

ビジターセンターのことに私はずっとこだわっていましたが、今もお話が出たように、静岡市の集客のためのビジターセンターと同時に、博物館へも招きたいとすると、総花的になってしまって、どちらにも中途半端なものになる危険性があると思います。お金をどこに集中してつくるのかで、あくまでも博物館の力で集客をすることを念頭に置いて、お金の配分、あるいは展示のことを考えていっていただきたいと思います。

○委員長：ビジターセンターの開設につきましては、今、皆さんのお話を伺ってふと思ったのですけれども、小さな舞台みたいなものが設定できることを念頭に置くと、照明や音響についても、単なるにぎわいの空間ということだけではなく、そこまで配慮した仕掛けができれば、もっと活用の幅は広がるという気もいたしました。これはぜひ考えていただければと思います。

○今村：ビジターセンターに関しては、先ほど森田委員から、学芸員との仕事の分担をどうするかという話があったと思いますが、学芸員がここまでやるのが理想かとは思いますが、出発地点からはできないと思いますので、こういったビジターセンターがかなり大事になってくると思うのです。人と人をつなぐ意味で、ここにやる気のある人が来るのがとても大事になってくると思います。まずはここに人を集めるということで、さまざまご意見が出ましたように、ステージを設けるとかも十分あり得ると思いました。

その際に、連携はすごく大事になってくると思います。別の視点から連携の話をして

と、今回の中では家康公の研究を 1 つの基軸として、そこを売りにしていきたいというお話がありました。これは、前に事務局の方にもお話ししたのですけれども、実は結構難しいことで、人がいないといけないということです。さらには、私の専門の点では、全国に幾つか研究拠点があるのです。それは市民系のところもたくさんあるのですけれども、そこがなぜ拠点になっているかという、資料を持っているからです。

だから、家康公の資料をこれから集めていくとして、どれだけ集められるかという問題も 1 つあるのですけれども、一番大事なのは、研究をやっている機関といかに連携が取れるかだと思います。今、成功しているのは、連携が取れているところです。例えば飯田市は、歴史研究所があり、東京大学と密接につながっています。研究成果も出ますし、市民に還元もしています。

なので、ビジターセンターは、もちろん市内観光、場合によっては市外観光で、今回のお話で行くならば、大行進ということでビジターセンターがあるのですけれども、駿府城の石は伊豆から運ばれているわけで、伊豆の石丁場は、今度国指定史跡になる予定なのですが、こういったところといかに連携できるかも大事です。

市民との交流でぜひ設けてほしいのは、奨励賞です。市民の方々が家康や静岡市に関する研究をしたときに、年間での奨励賞みたいなものを設けておくと、市民の方々も、せっかく興味を持っているからこれを一つまとめてみようとする気になります。

そういう市民向けの賞、もしくは連携の在り方が、今後非常に大きな課題になってくると、私は感じました。

○杉山：皆さんのお手元に芹沢銈介の展覧会のものがあると思うのですけれども、弊社は両方とも主催事業で一緒にやらせてもらっています。今回これをコラボするときに、いい悪いはともかくとして、静岡市美術館と芹沢銈介美術館は組織が違うので、見かけはコラボをしているのですけれども、お金の使い方、基本的な考え方、方針も全く違うのです。告知をしようといっても、いろいろなことがありました。いろいろなことがありながら、その 1 つのいい例は、静岡市美術館に来てくれた人を芹沢銈介美術館にその日のうちに行ってもらうことにしました。

静岡市美術館に来る方は、登呂にある芹沢銈介美術館に行く人よりも車で来る人が少ないだろうから、バスの無料チケットをそこでお渡ししようと思えば弊社がアイデアを出し、しずてつジャストラインさんに相談をしました。特別協賛の清水銀行さんに相談をすると「お金を出します」と言ってくれました。地域貢献で広告に名前が出て、清水銀行がプレゼン

トをして、しずてつジャストラインさんの名前を出すのですけれども、そうやって告知を  
すると、応援してくれるところもあります。われわれも告知をするときに、ではここを大  
きく出して、お互いにコラボをさせていきたいと思います、いろいろなアイデアが出てきます。

組織が違いますから、そこまで行くのがすごく大変なのです。同じ市内で、同じものを、  
同じテーマで、同じ目的でやろうとしていても、組織が違うだけでいろいろなことがあり  
ます。今後、この市の歴史博物館がどういう体制になるかは気になるのですけれども、ぜ  
ひ、考え方や基盤づくり、組織づくりに、最後まで柔軟性のあるものでいてほしいと今、  
期待しております。

○委員長：今日お休みになりました谷委員から、前回、事務局が伺ったときに聞いたお  
話があるようでございます。それをご披露願えますでしょうか。

○事務局：まず、ビジターセンターのところに挙げたイメージ図をご覧になって、これは  
私のような外の人間から見ると、駿府静岡のイメージではないと言っておっしゃいました。  
僕にとっては、これは長崎や堺のイメージで、あなたたちが伝えたい家康のイメージがこ  
の絵であって、これから静岡市が新たにこういう都市イメージをつくっていくのであれば、  
それはそれでいいとおっしゃいました。

「そうなんです」とこちらからはご説明した次第なのですけれども、その場合に、本物  
の富士山が建設予定地から見えることと、復元の巽櫓があり、この史実があることがセッ  
トになって、家康のイメージを訴えていく必要があるのではないかということをご提案い  
ただきました。この原案、イメージ図では、エンターテインメント性が非常に高いという  
イメージです。博物館としての品格を持っていることが必要で、その品格という意味で私  
は模型を提案したということでした。

また、絵にだまされてはいけない、イメージ図よりも実際にははるかに狭いはずだと  
言われました。絵のような雰囲気、行列が延々と続くような長さや天井高は、かなりの  
高さで、そこを考えて、あの場所に富士山が見える高さ制限を設けて、この天井高を最大  
にできるかなということです。先生は建築が専門ですから、そのようなことまでおっしゃ  
いました。

また、模型の製作については初期費用がかかりますとも言われました。市民の皆さんと  
だんだんにつくっていくとはいっても、開館前の活動として行って、開館時に合わせて製  
作をするというスケジュール感を持たないと、製作したいときに予算がつかない可能性が  
あるので、それはもっと計画的にやりなさいと言われました。「やれ」と言われて、すぐに

できるものではないですということです。

また、外国人が明確にターゲットに入っていないけれども、これからちょうどオリンピックに向けての建設計画で増えてくることは間違いないので、基本計画にちゃんと記載をしておかないと、多言語表示や印刷物をつくるときに、一言語いくらだと費用もかさんで足りなくなるので、そのへんを注意しなさいというアドバイスをいただきました。

また、収蔵庫、諸室面積の面でもご意見をいただきました。まず、5000 平米というけれども、5000 平米ありきという根拠が私には理解ができませんと言われました。積み上げてきたというのなら、もっと必要だったはずでしょう。それをなぜ 5000 平米にしてしまったのかということです。

過去の話になりますけれども、もともと文化庁が、県立や政令市にある博物館は 6000 平米という基準を示しています。その基準を使って検討をしたほうがよかったということです。今から言っても遅いのかなということではあるのですが、今からでも、収蔵庫や企画展示室やビジターセンターの面積は増やして、6000 平米にしておくことができないでしょうか。それを考えたほうがいいですとおっしゃっていました。

この部分については、今日出席できれば、僕はもう 1 回この場で言うとおっしゃっていました。

また、収蔵庫につきましては 800 平米ということで説明をさせていただきまして、その面積が限度ということであれば、中 2 階を設けるなどして、床を増やして、谷先生のところもそうなのですが、古文書類などの紙の資料が多い場合には中 2 階などでも十分収納が可能になるものですから、そういった設計を想定したほうがいいですと言われました。

また、先ほど収集すべきものについてのご意見もいただきましたけれども、その収集方針はしっかり決めて取りかかりなさいということでした。

展示室につきましては、常設展示室は 750 平米でちょうどいいという感想をいただきました。あまり大きくても、展示の製作物や、運営の面で大変になってくるので、恐らく今想定している展示内容ならば、これぐらいがちょうどいいということです。

子どもたちの学習のためには、通史の展示は必要で、たとえ面積が小さくても、一時代一つの資料で、静岡を代表する資料を一点展示でもいいので、静岡市の各時代が追える展示は、やはり必要ではないかということです。

また、ものが集まりやすいのは近現代で、今の展示構成の図では、近現代の面積が非常に狭いので、もっと広くしておかないとスペースが足りなくなるということです。まず、

展示できるものが何なのかを考える必要があって、先にストーリーをつくってしまってから展示物をかき集めるのではなく、まずもので語りなさいと言われました。もので展示をつくるのが静岡ならではの展示になるので、ストーリー展開を先に考えてつくりこむことはどこの博物館でもできて、静岡でなくてもできますと言われました。そこに注意をしないと大変なものになってしまうということでした。

映像という手段は、最後の最後的手段で、まず実物ありきで、次に実物がなければレプリカをつくらせてもらい、模型などの手段で分かやすさを追求します。それでも無理なら、最後に映像で、最初に映像を考えないようにということでした。

常設展示は 1 年間展示をできるものが、寄贈品や、これから寄贈してくださるもの、寄託の申し入れの中にあるのならば、収蔵庫にしまわずに、常設展示で常に見せることで、市民の皆さんからの協力を得られているとか、さらにこういうものならうちにもあるということにつながっていくので、ぜひ外に出しなさいということでした。

また、来年度は資料調査にも入っていく予定なのですが、資料調査のときには、展示できるものかどうかを念頭に調査に入っていくと有効ですというアドバイスをいただきました。

企画展示室は、企画展示室といっているところと、地域学習展示室を合わせて、企画展示をかけたいという考えでありますけれども、500 平米は少し小さいので、もう少しあるといいというところで、先ほどの全体の 6000 平米の話につながります。また、企画展示が小さいので、常設展示の一部を可動式にしておいて、展示替えなどで企画展示にも使えることを、ちょっと考えていたのですが、そういうことは考えないほうがいいということです。展示を片付けてしまって、また新たな展示をする手間を考えると、そういう使い方はよくないということです。たぶん、先生の実体験に基づいたアドバイスだったと思われる。

企画展示室や、地域学習展示室と部屋を分けてしまうよりも、そういう使い方をしたいのなら、もともと 1 つの大きい部屋にしておいて、それを分けて使えるような設計をしたほうがいいということです。600 平米ぐらいが、2、3 に分かれるように工夫をしておく、使い勝手はいいのではないですかというアドバイスでした。

また、企画展示室、地域学習展示室を合わせて、国宝や重要文化財の展示もできるようにしたいので、それなりの設備を整えたいと考えているのですが、空いている間は、市民の皆さんに貸し出しをするというアイデアを前にいただいています。それはいい考え

だということで、谷先生のところもそういう貸し出しをしているのですけれども、そういう場合にも、先に学芸員が使用基準みたいな条件を決めておかないと、いざ国宝や重要文化財を展示しようとしたときに、環境が合わないことにもなりかねないので注意をなさというアドバイスをいただきました。

それ以外にも、収蔵庫では金属製品と、漆のものと、紙のものと、木のものと、いろいろ収蔵を想定できるものがあります。例えば、湿度が 60%がいいのか、50%がいいのかは、それぞれ違ってくるものですから、保存環境が異なるものを一緒に収蔵庫に入れるときに、どういう工夫が必要かというところは、先進の例を見せてもらって、狭いスペースをうまく利用できる収蔵庫のつくり方もお話しいただきました。

それ以外にも、本当に細かいいろいろなアドバイス、文化庁との連絡の取り方や、大阪城の天守閣の博物館はちょっと変わった運営をしているとか、民間の方たちが入って、市の学芸員も入って面白いやり方をしているけれど、それがうまくいっているかはどうか、などというお話とか、本当に参考になりました。

○委員長：今日午前中に、谷先生から私に電話がございました。先生のお考えは、全部、委員会の席で言わせていただきますということになっていますので、今は谷先生のご意見ということで、受け取っていただければと思います。

それでは、一応、皆さんのいろいろなご意見を伺ったところで、まだ皆さん方に何か不足なり、そうだったのかというのがあるかもしれません。最後に短い時間ですけれども、少しずつお話をいただけたらと思います。

○松川：こういう施設は郊外がいいというのは何かというと、駐車場の問題です。ここは街中なものですから、駐車場の確保が心配になっています。

2 つ目としては、県で今つくっている自然史博物館（ふじのくに地球環境史ミュージアム）がいいと思うのは、先に人を決めているのです。その人が、2 年前から、プレゼンから何から全部やっているのです。外装ができてから説明会をやりまよと言っても、その 2 人が出てきて話をするのです。そういうかたちで、早めに核となる人を決めて、その人がずっと責任を持ってやっていく体制をつくったほうがいいのではないのでしょうかというのが、2 つ目です。

3 つ目は、谷委員がおっしゃったことはそのとおりだなと思ったのは、どの博物館に行っても電気を扱うものは調整中で稼働していなかったり、子どもはすごく乱暴なものですから、きれいにつくってあるのだけれど調整中で動かないことがあります。年度末にならな

いと修理できないという感じで、みんな調整中なのです。登呂博物館も調整中のものがあります。そのへんのところの恒常的な予算配分を考えてもらいたいと思います。以上です。

○望月：1 つ目が、写真を撮りに私が勤務している城内中学校の前に来る方が大勢いるという話なのですが、外国の方も来ます。最近はちょっと少ないのですが、秋口までかなり大勢来た写真スポットがあるのです。それが巽櫓の正面からではなくて、斜めから撮るので、本校の正門あたりに立って撮るのが一番いいらしいのです。

もう 1 つが、反対側に行きますと弥次さん喜多さんの銅像があるので、その前で撮るのです。見ていると、大体その 2 つなのです。そこで撮っていると、トイレに行きたくなった方が学校に入ってきて、使わせてくださいと言われて何人かお連れしたこともあるのですが、トイレに来やすく行けるようなところにしていただきたいと思います。

せっかく写真スポットのいい所におつくりになるので、駿府城全体が見渡せたり、富士山という話もあったものですから、そういうものが展望できるところがあるといいかなと思います。そういうのを集めて写真展をやってもいいかなと思いました。

子どもたちが見学に行きますので、先ほどの熱川委員のお話で、柵形の中に 800 人という情報は、本当に来た人でないと分からないレアな資料だと思います。静岡の子どもたちが見学に行きますので、ここに入ると 800 人というのを知っていると、日本国内で少ないケースになります。何かワンポイントレッスンではないのですが、見学したときに、ここではこれというもので、それを知っていることで優越感、レア感が生まれるものをペーパーとかカードで頂けると、ちょっと威張れるかなと思います。

○森田：先ほどから連携の話が、いろいろな場面で出てくるのですけれども、実際に稼働するまでまだ時間がありますので、その期間を連携のために使っていただきたいと思います。

先ほど今村委員からあったように、研究の分野に関してはきちんと大学と連携を取って、自分たちがいいと言っているのではなくて、対外的にも本当に認められるような研究施設として位置付けていただきたいと思います。

地域の交流にしても、今回の一番大きなポイントは、歴史博物館の部分とビジターセンターとの連携になると思うのですけれども、先ほど杉山委員が言われていたように、企業とかまで全部巻き込んでお互いにウインウインになるような連携をつくれるようになるのがいいと思います。

それをやりやすくするために、少なくとも歴史の分野とビジターセンターの部分のトッ

プは同じ人でないと難しいと思います。別の機能で動くにしても、社長は同じ人になってもらわないと難しいのだらうと思います。そこらへんも含めて、運営の在り方とかも企画してもらえるといいなと思いました。

物販とか、いろいろなことに関して、最初は民間を圧迫してはいけないみたいな話が出ていたと思いますが、まちなかにつくるので、そんな小さいことを言っていないで、商圈を広げる、静岡のまちを魅力的にするエリアを広げるのだという意気込みでやるくらいでないと、人は呼べないと思います。そこらへんも、行政的な感じではない、もっと広い視野での感じで進めていただけたらと思います。

○杉山：先日、キラメッセぬまづ（プラサヴェルデ）に企画展のことで伺ったら、何と搬入口にエレベーターがないのです。なぜこうなってしまったのですかということがあったのですが、最初の段階からありませんでしたということでした。だんだん煮詰まってきたら、基本的に、専門家とか、実際に使う人の話とか、いろいろなことを聞いていただきながら、柔軟性のある対応で進めていただきたいと希望します。

仕事柄、企画展の巡回展の提案をいろいろ受けるところにいるのですけれども、全国が人が集まっているところで、「静岡は博物館がないですからね」といつも排除されていたのですけれども、「いやいや、数年後にはありますから」というふうに企画を取って来られるようなものになってほしいと期待しております。ありがとうございました。

○杉澤：この歴史文化のまちづくりというところは、人口減少対策が目的になっていると思います。人口減少は、地域活性化などのキーワードに結び付いてくるのでしょうか。ですので、周りの商店街なども巻き込んで、このエリアで元気になっていくよう取り組んでくださると、非常にありがたいなと思いました。

○櫻井：私は、芹沢銈介美術館が好きなのです。建物が素晴らしいのです。ただ、素晴らしい建物なのに、中に入ると窓のカーテンを全部閉めてしまっています。あの建物を設計した人は、ガラスから光を入れて噴水のある中庭を見ることを想定してつくったはずなのですけれども、その光を入れてしまうと、作品に悪いということで全部カーテンを閉めて、すごく残念だなと思います。一度全部開けて、ほかのことで公開してほしいなと思っておりますが、そういう意味で、博物館はそれほど見てくれに力を入れる必要はないと思うので、中の収蔵機能、展示機能で堅固なものをつくるようにお金の使い道を考えて、いいものをつくっていただきたいと思います。

○今村：収蔵室と展示の件に関しては、収蔵室がもし増えればということで、駄目な場合

は 2 階建てというかたちで、地域防災の観点からも、この歴史文化施設が収蔵機能を持つところの拠点となるようなかたちで動いてもらいたいというのが、私の希望です。展示に関しても、近世近代に関してできる限りスペースを確保していただきたいと思います。

2 点目としては、ビジターセンターのイメージが国際交流都市という話で、これを静岡市も将来目指していくのだというところで重なるのならば、私も賛成したいと思います。その際に、国際交流の実績は、家康公以外でも静岡にはたくさんあるのです。茶貿易の関係で非常に多くの外国人が、安西の地区に来ています。今も洋館が残っていますが、ああいったものをいかに活かしていくのかも、ぜひ考えていただければいいかなと思います。

○熱川：谷先生の収蔵庫の話は、僕も賛成です。ホテル併設と言っているのは、こちらに集約できるものは民間に集約してもらうように、知恵を使ってやればいいのではないかと思います。この間も、金沢の石川県立歴史博物館に行ったのだけれど、明治の末期から大正にかけての陸軍の兵器庫を活用して、ものすごくすてきな建物なのですが、何が悩みですかと聞いたら、収蔵庫だと言っていました。市内各地に分散してあるので、保管がいいところばかりではないということで、非常に心配されていました。そういうことがないように、谷先生のアドバイスに従ったほうが、後々後悔しないのではないかと思います。

子どもたちの話ばかりなのですが、『タカラッシュ！』というのが全国的にはやっています。歴史発見の宝探しみたいなもので、まちなかをぐるっと回ります。それで最後に元に戻ってくるみたいなものを、こういう歴史博物館でいつでもできるようにすると、商店街等々とのコラボもできるのではないかと思います。

それから事前の体制です。前にもお話ししたと思うのですが、AOI をつくる時に、芸術監督、全国公募の学芸員を呼んで、その中でどういうふうにするのかということをやってきたので、ちゃんとした 5 つの柱ができて、きちんとやっています。そういう責任ある人として、まず館長を決めるのが一番かなと思います。

八戸の話ではないけれども、ああいう情熱的な館長であれば素人でもいいのかもしれないので、ベストな人を選んでもらって、その人たちと組み立てていくのが一番いいのではないかと思います。

駐車場の問題が出ましたけれども、静岡のまちなかでは、駐車場の心配をする必要はあまりないと思います。県の美術館は今更だけれど、図書館は広さを求めてしまってもっと近くに駐車場が欲しいというのが県の悩みみたいです。そういう意味では、まちなかにあ

るのは大事かなと思います。科学館も、美術館も、AOI も、駐車場をつくれという要望は出てきていないですから、まちなかであればいけるかなと思います。マリナート（静岡市清水文化館）をつくったときに、駐車場をつくれつくれと大騒ぎしたけれど、今はべつに困っていません。そういう意味では、周辺にもコインパーキングがどんどんできてしまっていますから、あまり気にしないほうがいいのかなと思います。

歴史博物館の中で登呂遺跡の素晴らしさを伝えて、登呂遺跡に行けるみたいなきっかけのコーナーだけはつくってほしいと思います。登呂遺跡が歴史的にいかにも素晴らしいものか、いまだに光を失っていないところを示すようなところが欲しいなと思います。

○委員長：ありがとうございます。各委員から、まとめのお話をさせていただきました。これで本日の議事は終了とさせていただきたいと思います。事務局は、いろいろなご意見を踏まえて、今度の基本計画の最終案をしっかりと出させていただくようお願いしたいと思います。

では、今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

○事務局：皆さま、本日は建設的な素晴らしいご意見をありがとうございました。これから、皆さんの意見を取り入れながら完成に努めていきたいと考えています。

そうした中で、今後のスケジュールにつきまして、説明をさせていただきます。

この基本計画案を基に、今月の 14 日から来年の 1 月 12 日までの間、パブリックコメントを実施いたします。計画案につきましては、市のホームページで公開するほか、静岡庁舎 17 階の歴史文化課の窓口や、各区役所の市政情報コーナーで閲覧できるようになっております。その後、パブリックコメントの意見をまとめ、最終の修正を加え、2 月に市の意志決定を行う経営会議に諮り、年度末に策定公表となります。

委員の皆さまには、約半年間にわたりご協議いただき、誠にありがとうございました。基本計画策定のための検討委員会は、今回で終了いたしますが、委員の皆さまには、歴史文化施設の機能、規模、展示内容、運営方法にご意見をいただくこととし、平成 29 年 3 月までの任期で委員をお願いしております。今後も建設に向けてご教示をいただいたり、ご意見を伺うこともあろうと思います。これからも歴史文化施設の建設にご協力をお願いしたいと思います。

○委員長：それでは、これまでお付き合いくださいました各委員の皆さま方に、委員長として改めて感謝を申し上げます。今説明がございましたように、任期がまだあるそうでございますので、折に触れてご意見をいただいたり、場合によってはお集まりいただくこと

があるかもしれません。その節はぜひよろしく願いいたします。

最後にあたりまして、私なりの思いをひと言だけ述べさせていただければと思います。そもそもこの施設は、静岡市の基本的な政策の一環として展開していくわけです。具体的に言えば、直面する課題をどう解決するか、あるいは市の将来構想をどういうふうを描くか、その 1 つの出発点として非常に重要な意義のある施設であると、私は考えております。

折しも家康公 400 年祭ということで、歴史に対する一般の関心も非常に高まっているわけです。そういう中で、静岡市民の共感を得る、あるいは静岡市の歴史についての自信、ひいてはふるさとへの愛着をしっかりと高めていく手助けができる施設として存在すべきだと思いますが、今までは必ずしもそうした面からの政策にあまり重点が置かれてきませんでした。

しかし、本年度からスタートいたしました、第三次総合計画のいわば筆頭に掲げられているのが、歴史文化のまちづくりということであるとすれば、この施設に対する期待は非常に大きいし、またそれが十分に活用できるような仕組みをしっかりとつくっていくことが非常に大事だと思います。

アイデンティティーという言葉がよく使われますけれども、昔風に言えば愛郷心と言いますか、ふるさとを愛する気持ちです。これがそのまま、ある意味では人口減少にも歯止めをかけることに、長い目で見ればつながっていくだろうと思います。そういう意味で、ふるさとの歴史と文化をしっかりと知ることが、こうした愛郷心を涵養していく非常に重要なきっかけになるだろうと思います。

余談ですけれども、この間、映画の『ミケランジェロプロジェクト』を見てきました。映画そのものはあまりいいとは思いませんでしたけれども、1 つだけ印象的な言葉がありました。この映画は、ナチに奪われた美術品を命懸けで取り戻すというストーリーで、実話に基づいたと言われていますが、実際に何人か死んでいます。そのときに、俺たちはなぜこんなことをするのかという自問自答があったとした場合、「それがわれわれの歴史と文化を奪還するのだ。これがこのプロジェクトなのだ」というせりふがあったように思います。

この問題は、美術品という具体的な物を主題にしているわけですが、この歴史文化を我々がいかに大事にし、それを基に自分の生き方をまた考えていくことは極めて大事なことであります。これは単なる政策を超えた、大変重要な市民意識の涵養、個人の成長に資する大変重要な施設として期待されているのだと思います。

そして、そうした上に立って静岡頑張ろうということを、市民が一体となって意識することができれば、大変大きな効果を上げることができるであろうと思います。

この事柄につきましては、各委員の皆さん方からいろいろ有益なご意見等をいただいていますので、当局としては、それを基に立派な構想をさらにまとめ上げていくように、ご努力をお願いしたいと思います。

そんなわけで、事務局に期待するところ大でございます。ぜひ、市長がよくおっしゃるように、スピード感を持って、構想の実現に努力していただければ、委員としても大変嬉しいことだと、全員が同じ気持ちでいると思います。どうも皆さま、ありがとうございました。

### (3) 局長あいさつ

○観光交流文化局長：中村委員長、本当にありがとうございました。皆さんも、忙しいスケジュールの中でお集まりいただいて、ほぼ全員毎回来ていただき、本当に活発な有意義なご意見をいただいたことに、本当に感謝しております。本来でしたら、これは 2 年かけてやる所を、1 年ではなくて、4 月から 12 月までということで、本当にスピード感を持って検討はできたかなということで、あとはそれをわれわれが皆さんと一緒に具現化するのが、一番の課題だと思っております。

私たちの総合計画にありますように、静岡市が目指す 1 つのまちが、歴史文化のまちということです。もう 1 つは健康長寿のまちということで、どちらも家康公にはかかわってくるのですが、それと家康公顕彰 400 年祭の結実でありますし、また具現化ということで、皆さんからいただいた意見を聞いていると、本当に素晴らしいものができるのではないかと考えております。

皆さんにはまだまだ任期がございますので、陰に日なたにご支援、ご協力をお願いして、私からのごあいさつということで、本当にありがとうございました。また、これからもよろしく願いいたします。

### (4) 閉会